



2月5日(火)南下浦小学校4年生がワカメの収穫を行いました。子どもたちは笑顔でわかめの養殖場まで向かいました。

収穫の際には育ったわかめの大きさに驚きの声を挙げつつ、ハサミでワカメ収穫の体験をしていました。根元の部分をさわって「タイヤのゴムみたい」と感想を述べる子どももいました。また、楽しく収穫している中、「わかめを取りすぎないようにしよう!」と発言する子どもも。資源が有限で大切にすることが必要だと、「海を守る」必要があることも意識しているようです。



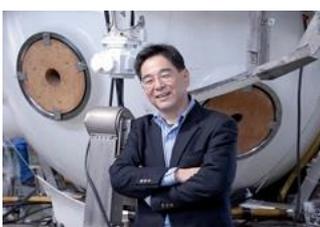
9日(土)東京大学の安田講堂で、第6回全国海洋教育サミットが行われ、三浦市からは、上宮田小学校5年生と南下浦中学校ハンディクラフト部がポスターセッションに参加しました。その他、初声中学校の生徒が見学するなど教員を含め、三浦市から総勢29名が参加しました。

最初に、日本財団の梅村海洋チームリーダーが「海を自分事としてとらえることが必要、海を通して世界のつながりを考えた実践が少ない、グローバルな視点を持って、地域を理解することが求められる」というあいさつをされました。

イベント本編では、最初に、東京大学海洋アライアンスの及川主幹研究員が、「海洋教育のこれまで」について説明されました。



続いて、ポスターセッションに移り、上宮田小学校5年生が「黄金に輝く松輪サバ」について、劇形式で発表し、続いて南下浦中学校ハンディクラフト部が「海の食材を利用した簡単朝食レシピづくり」について発表しました。どちらも、安田講堂のステージ前中央という目立つ場所で堂々と発表していました。子どもたちにとって、得難い経験だったと思います。



その後、ディスカッションの部に移りました。講演の一人目は、JAMSTECの藤倉克則さんでした。テーマは「海洋プラスチック問題」。3・11で考えられない量のプラスチックが海へ流れ込んだこと、2050年には、海に流れたプラスチックの重量が、海の魚全体の重量をこえると予想されること、世界のプラゴミの50%はアジアから出ていること、行方不明のプラスチックが深海にある可能性が大きい事、駿河湾の2400mの深海がレジ袋だらけであることなど、考えさせられる内容でした。

(文責 事務局長 渋谷)